

分担研究報告書

Global Health Diplomacy Workshop

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター 国際協力局 局長
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	須貝 眞彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教

研究要旨

グローバルヘルスの今日課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウイズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化のなかで、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が求められている。本研究では、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画、実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図るものである。

ワークショップは主要グローバルヘルス課題や主要機関のガバナンスに関する知識及び交渉術や発言方法に関する基礎的スキルを取得することを目的に開催された。大半の参加者から知識とスキルの向上が確認され、好評を得られたが、初めてオンラインで開催されたワークショップであったことにより課題も明らかになった。次年度以降は、オンライン開催の限界も考慮しながら、参加者間及び参加者と講師間のやりとりがよりインターラクティブとなる工夫を行う計画である。

## A. 研究目的

グローバルヘルスの今日課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはそのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題及び日本含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウイズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化のなかで、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画、実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図る。

## B. 研究方法

### 1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健課題の議論に戦略的に介入して日本の立場を有効的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催する。

対象は30名ほどの厚生労働省、外務省、アカデミア、民間企業、非政府団体(NGO)職員等グローバルヘルスに関わる若手から中堅職員とする。また関連領域の大学院生および大学生を含む30名ほどのオブザーバーも聴講者として参加する。

ワークショップは新型コロナウイルス感染症感染

のリスク軽減を考慮し、オンラインで開催する。

ワークショップは以下7点を目標に、国際保健機関、ブラジル政府、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いてパブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成する。

- (1) 国際的機関(国連・国連の専門機関・パートナーシップ)におけるガバナンスの意味を理解する。
- (2) 会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (3) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (4) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる技法を習得する。
- (6) 国際益と国益を調和させる姿勢を滋養する。
- (7) 国際会議の暗黙知を共有する。

### 2. ワークショップの効果測定

ワークショップでは、参加者を対象とした事前・事後知識検査および終了時評価アンケート調査を実施し、スキル(能力・知識)の習得状況、研修カリキュラムの形成と評価に対する調査を行う。知識検査およびアンケートは、すべて任意回答、匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、有用な教材・研修プログラムの開発の策定を行う。

(倫理面への配慮)

ワークショップ参加者には教材開発の一環として実施されていることを同意取得の上で研修に参加してもらう。本研究における効果判定は、すべて匿名化データを扱うため、倫理審査の対象外であった。

## C. 研究結果

令和2年12月11日-12日の二日間にわたり、オンラインでワークショップを開催した（プログラム詳細は参考資料「Global Health Diplomacy Workshop (2020) Course Overview (ワークショップ概要)」を参照）。参加者は33名、オブザーバーは32名であった。

国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの歴史の講義の後、世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義が実施された。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディの講義、及びパートナーシップに関する講義が実施された。

さらに、実践的なスキル習得のために模擬WHA形式でパブリック・スピーキング・介入の演習を実施した。具体的には、実際に使用されたWHAの議題と研究班が用意した対処方針を元に、参加者に日本代表の視点を想定して発言案を準備してきてもらい、発言案を発表・練習した。参加者一人一人の発言内容に対しては、講師陣より効果的な発言内容及び発表方法のフィードバックを提供した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査(表2)では、大半の参加者から好評を得られた。特に発言の演習(模擬WHA)、交渉術や世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義は参加者の実務にスキルと知識を直結できる内容で、大いに参考となるという意見が多く見られた。(表4)

また、事前・事後に実施した知識検査では、ワークショップ終了後に参加者の国際保健主要課題及び国際保健会議の会議準備プロセスやルールに対する知識が深まったことが確認取れた。(表6)

## 考察

本ワークショップの参加者は、若手から中堅職員のうち、国際保健分野の知識または実務経験のある人に限定した。しかし、一部の過去事例に関する講義など複雑な国際保健課題に関する講義内容が中上級者向けの内容となっており、参加者の知識・技術レベルと講義内容が合致しなかった例も見受けられた。このような場合には、日本語でも質疑応答できる時間をワークショップ内に設けたが、次年度以降の教育プログラムを開発する際には、講義内容及び参加者の知識・技術レベルが一致する様工夫する必要がある。また、可能な限り、複雑な事案に関する講義内容は日本語で解説を加える、または、質疑応答の時間を設ける工夫を実施していくことが望ましいと判断された。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでのワークショップ実施を試みた。当センターでは過去3年間に及んで同様のワークショップを対面で実施してきた実績があったものの、模擬WHAや複雑な保健議題の講義をオンラインで実施するには、オンライン開催の限界も考慮しながら、参加者間及び参加者と講師間のやりとりがよりインターラクティブなるような工夫が必要であった。参加者からの終了時評価アンケート調査においても、同様の意見が多く見られた(表5)。本ワークショップのような集中的な研修は対面で実施することが望ましいが、コロナ禍で次年度以降もオンラインで実施し、より効果的な教育プログラムにするには、オンライン向けにプログラムの一部再考が必要となる。

D. 健康危険情報  
該当なし

E. 研究発表  
1. 論文発表  
該当なし

2. 学会発表  
該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし

参考資料

1. Global Health Diplomacy Workshop (2020)  
Course Overview (ワークショップ概要)

(<http://www.ighp.ncgm.go.jp/events/list/GHDWSCourseOverview2020.pdf>)

表1：参加者属性（任意回答アンケート）

	Participants		Observers	
	n=29	(%)	n=11	(%)
Age range	20-29	6 (20.7)	3	(27.3)
	30-39	14 (48.3)	3	(27.3)
	40-49	6 (20.7)	1	(9.1)
	50-59	3 (10.3)	3	(27.3)
	60 and over	0 (0.0)	1	(9.1)
Sex	Male	9 (31.0)	6	(54.5)
	Female	20 (69.0)	5	(45.5)
Nationality	Japan	29 (100.0)	10	(90.9)
	Other	0 (0.0)	1	(9.1)
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	8 (27.6)	3	(27.3)
	No experience	21 (72.4)	8	(72.7)

注 アンケート回答率：66.7%

表2：各セッション満足度（%）

	Participants (n=29)						Observers (n=11)					
	Did not participate	Poor	Fair	Satisfactory	Very Good	Excellent	Did not participate	Poor	Fair	Satisfactory	Very Good	Excellent
Session 1-1: Overview of global health diplomacy	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (31.0)	20 (69.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	4 (36.4)
Session 1-2: WHO and its role in global health governance	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.2)	24 (82.8)	2 (18.2)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	7 (63.6)
Session 1-3: Preparing for WHA and drafting of interventions	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (31.0)	19 (65.5)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	5 (45.5)
Session 1-4: Mocked up intervention (role play exercise)	2 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (13.8)	10 (34.5)	13 (44.8)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	5 (45.5)	4 (36.4)
Session 2-1: Introduction to negotiations	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.4)	8 (27.6)	19 (65.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	8 (72.7)
Session 2-2: Real life negotiations 1: UHC	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	1 (3.4)	10 (34.5)	17 (58.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	5 (45.5)
Session 2-3: Real life negotiations 2: Access to Medicine	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	4 (13.8)	11 (37.9)	13 (44.8)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	5 (45.5)
Session 2-4: WHO partnerships, network and alliances	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (10.3)	12 (41.4)	14 (48.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	6 (54.5)
Session 2-5: Interactive Q&A	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.2)	11 (37.9)	13 (44.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	4 (36.4)	5 (45.5)

注 アンケート回答率：66.7%

表 3 : ワークショップ全体評価 (%)

Items	Participants (n=29)					Observers (n=11)				
	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Clear learning objectives	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.9)	10 (34.5)	17 (58.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	4 (36.4)	6 (54.5)
Organized and well planned	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.9)	15 (51.7)	12 (41.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	1 (9.1)	8 (72.7)
Matched expectations	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (10.3)	16 (55.2)	10 (34.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	5 (45.5)	5 (45.5)
Appropriate workload	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	19 (65.5)	9 (31.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	3 (27.3)	6 (54.5)
Fully engaging	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (34.5)	14 (48.3)	5 (17.2)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	3 (27.3)	5 (45.5)
Effective resource persons	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (31.0)	20 (69.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	9 (81.8)
Clear presentations	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (48.3)	15 (51.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	9 (81.8)
Resource persons were stimulating	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	9 (31.0)	19 (65.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	10 (90.9)
Satisfaction on Q&A sessions	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.9)	15 (51.7)	12 (41.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	8 (72.7)
Helpful Secretariat	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	12 (41.4)	16 (55.2)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)
Ample time for distribution of materials	0 (0.0)	1 (3.4)	2 (6.9)	18 (62.1)	8 (27.6)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	4 (36.4)	6 (54.5)
Sufficient length of Workshop	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.2)	14 (48.3)	10 (34.5)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	4 (36.4)	5 (45.5)
Convenience of weekend	0 (0.0)	4 (13.8)	2 (6.9)	11 (37.9)	12 (41.4)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	6 (54.5)

注 アンケート回答率：66.7%

表4：ワークショップの良かった点（自由記載回答）

Q: What aspects of this workshop were most useful or valuable to you?	
	WHO and its role in global health governance: My knowledge was grey and never had a chance to learn about it, but the presentation made it clear.
	Negotiations: Useful skills.
	学生時代から国際保健分野と関わりたいと思っておりましたが、現在の仕事では全く触れることはなく、今後のキャリアの寄せ方について勉強したいと考え参加しました。国際課の仕事や国際機関の仕組みが理解でき、具体的なイメージが湧きました。
	普段、なかなかうかがい知ることができない、国際機関の内情について、垣間見ることができたことです。
	ビジネス・社会生活における基本事項が、やはり大切であると確認できました。（挨拶をする、コミュニケーションを怠らない、感謝を述べる、アクティブリスナーである等）
	COVID 渦においては、SNS 等の力も借りて、コミュニケーションの維持・メンテナンスを如何にしていけるかも重要となることが分かりました。
	どのセッションも非常に沢山の学びを得ることができました。中でも Intervention や Negotiation の講義・演習は実務とスキルに直結する内容で、これから自分自身、練習や経験を積んで研鑽していきたいと思いました。
	国際会議に臨むうえでの事前準備や、対処方針の作成、発言する際のマナー、コツ等、実践的なアドバイスを複数の先生の視点で教えていただいたこと。
	最前線にいる方のお話を聞くことができた点
	内容がほぼ当方の業務内容であり背景知識があるからかもしれませんが、NiloさんとMattaさんのレクチャーなどは特に、日頃の業務内容の背景をより時系列に沿って説明していただき、たくさんあるパートナーシップの詳細な説明など、タイムリーに業務に生かせる内容でありがたかったです。（ただ、背景知識がない方にはわからなかっただろうと思います。）坂元先生のレクチャーも2021/1のEB148の案を考える際に活かせる内容でした。
	Mocked up interventionは大変有意義でした。発言の際は大変緊張しましたが、その準備の過程も含めていい勉強になりました。
	どの講義も大変役立つものでしたが1日目の講義を生かしたワークが印象に残りました。ご提案として3点あります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークは2日目等にできると、講義を生かしたインターベンションができたかなと思います。</li> <li>2. 平日が業務で忙しかったのは言い訳にしかありませんが、日曜日だと土曜日に学んだことを生かしながら実践できたかなと思います。まったく国際会議等の経験がなかったので、どういうインターベンションステートメントを書けばいいのか他の方を参考にしていたので。</li> <li>3. 皆さんどうしても日本代表のインターベンションを選ぶと思いますので、示してくださった日本のインターベンションは例示とし、事前に各参加者に仮想で国を割り当てる、もしくは参加者が自分で日本やリソースパーソン以外の国を選ぶといいのではないかと思います。学生の参加するGlobal Model UNという全世界からの学生がUNでの会議を自分の国とは関係ない国の代表としてシュミレーションする会議があるので、そういったことをすると、事前に少しその国のことを調べたりという手間はありますが、色々なステイトメントポイントがでてきて、リソースパーソンの方からもどのように発言をデリバリーするかということだけでなく、テクニカルなアドバイスにもつながるのではないかと思います。</li> </ol>
	私の場合は、実務とワークショップが重なっていたので、来年の総会などに向けてここで習ったことを参考にさせて頂き、次回の業務がもっと理解できた状態で回せるようになると感じました。
	実際の交渉の舞台裏のお話や、交渉術のお話は大変面白かったです。

	全ての講義が <b>intellectually stimulating</b> でしたが、とりわけ、1日目のグローバルヘルスガバナンスでの WHO の立ち位置、理事会・総会関連の膨大な資料の中の読み方（地球の歩き方ならぬ「WHA の歩き方」と言えるでしょうか）が、現在の仕事に直結する内容で非常に役立つ内容でした。実務のご経験豊富な先生方のコメントは、一言一言が重要でした。そして、総会での発言の実技演習とフィードバックは実に貴重な機会でした。
	省庁で勤務していることから、実務的な観点で特に勉強になりました。特に中谷先生の講義で、膨大な文書をよむポイントや、またその他の先生方の講義を含め、国の意見をどのように組み立てていくのか、どのように発言を組み立てるのか等、実際に現場の経験豊富な方々から教えていただいたのがとても貴重でした。
	第一線の現役官僚の皆さまに非常に実務的かつ臨場感のあるご講義をいただき、大変貴重な機会となりました。
	<b>Private sector</b> から参加させていただきましたが、政府機関、MLO の方の動き方、決議事項が採択されるまでの過程など、参加しなければわからなかったことを知ることができた点が収穫でした。
	教育プログラムとしては、ストラクチャーが大変しっかりしており、リソースパーソンの多さも含め、こんなゴージャスな PG が毎年実施されていることに驚きました。
	今回 <b>diplomacy</b> 用の作り立てではありましたが、個人のスキルという点では、企業の求める姿とも一致する部分も多いと感じました。
	過去に何度か WHA に <b>Non State Actor</b> として参加し、 <b>Statement</b> を読む機会がありました。 <b>Statement</b> を準備をする際、今回のように包括的なレクチャーなどを受けたことがなく、経験のある参加者のアドバイスをもとに手取り足取り指導してもらってなんとかこなした感じだったので、今回アウトラインを一からきちんと学ぶことができ、非常に勉強になりました。また裏で行われている <b>Negotiation</b> の実際も知ることができて、とても興味深かったです。
	タイの方が、外国である日本人の若手養成に一生懸命取り組んでくださり、感銘を受けました。
	WHO での議論の手続き、方法について全く知識をもっていませんでしたが、それに関するイメージをつかむことができました。行政もしくは WHO で仕事をしたいという学生に以前よりも具体的に説明することができます。
	<b>All the lecturers have rich experience in the field of Global Health Diplomacy, so every piece of the information was very hands-on, pragmatic, and precious for me.</b>

表 5 : 改善が求められる点 (自由記載回答)

Q: How would you improve this workshop?	
	平日の夜は仕事で事前課題に取り組む時間がなかったため、Mocked Up Intervention に向けて文書を読みきちんと準備をするためにも、週末を挟んだ一週間前には事前課題を送付いただけますと大変助かります。
	事前準備のご案内は、遅くとも 1 週間前までに頂けると大変助かります。
	配布資料、特に講師からの事前に読んでおく資料 (Reading) について、もう少し早くお知らせいただきましたら幸いです。
	予習の時間を確保するのが困難でした。
	可能であれば、講義の資料をもう少し事前に共有していただければ、印刷する時間があり、メモ取りがしやすかったと思います。
	EB の Mocked Up Intervention Session において、resource person の方から、良い例を実践していただく機会をいただくと、より参考になったかもしれません。
	これまで、諸外国が行うウェビナーを多数参加・閲覧してまいりましたが、チャットボックスがまったく流れない (質問が多数飛んでこない) というのは、日本のあるあるだと思いました。登壇者の方に申し訳なく思いますので、仕込みの質問の準備は、2-3 つ必要ではないでしょうか。
	もう少し、事前課題の連絡が早ければ良かったかと思いました。 また事前課題について、すでに対処方針が明記されている中で、どのように発表することが求められているか (単純に訳せば良いのか、アレンジを加えるべきなのか、どのようなアレンジを加えるべきか)、事前の段階にいただいた資料だけではわかりにくく感じました。 当日の午前中の講義や、他の慣れていそうな方の発表を聞く中で理解できました。 1 日目にありました参加者がインターベンションを行うセッションですが、事前配布資料中にありました「代表団が東京出発前に受領した対処方針」は、あくまでも「見本」として、明記するとよかったかと思います。確かにあれは EB 146 の発言案和文の実物ですが、参加者の方にはこれを要すれば参考にし、自由に発言案を考えるとところからしていただくと、よりワークショップ内容の幅が広がったかと思います。
	mock intervention に関しては、breakout セッションとして、少人数のグループに分けて開催することにより学びをより一層深めることができるのではないかと思います。
	Mockup セッションでは、ブレイクアウトルームを活用して、参加者同士の意見交換の機会を設けることで、より一層「参加型」のワークショップになるように感じました。
	オンライン参加で運営が難しい点もありませんが、Charlie さんのご発言にもありましたが、「交渉は得た知識をもとに実践が大事」とのことでしたので、この部分のワークショップをブレイクアウトセッション等でいくつかの班に分かれて実践してみたらもっと実感できたかなと思いました。
	intervention の演習について、ブレイクアウトルームを作って選択した議題ごとに分け、全員 3min バージョンと 2min バージョンの両方を経験できるなどにしてもよかったかと思いました
	最後の知的財産権のセッションは事前知識不足で少し消化不良の感でした。保健のバックグラウンドでない人向けに課題図書など事前課題を出してもらえると理解が深まったかもしれません。また、mocked session もとても良い経験になったのですが、抑揚やポーズ、目線、動きなど「気をつけるべきポイント」を事前に示していただいて、それを知識として知ったうえでの練習にしてもいいのかとも思いました。また、総括のコメントも有益でしたが、可能であれば、個別のフィードバック(簡単なフィードバックでいいので)があると尚よいと思いま
	1. Mocked up intervention (role play exercise)の情報が 1 週間前くらいにいただけたらよかったです。また、日本政府の対処方針のみに従わないといけないと理解していたので、例えば架空の non-State Actor として架空のシナリオでも (注: 課題や問題点は過去のリアルな資料と現実に即し) 大丈夫なように事前ガイダン

	<p>スをいただければ、各参加者からの発言内容がよりクリエイティブになったと思います。</p> <p>2. 発言や質問する参加者に偏りがあったのは、オンライン形式であるゆえで仕方ないことだと思いますが、他の参加者の方々も実は発言したかったがしそびれていたのでは、と思いました。</p>
	<p><b>Video lecture</b> は時差を超える取り組みとしても有意義でしたが、セッションを見るのに精いっぱい、質問を考えチャットに記載する時間として不足、他の参加者の方の質問を見る時間も不足、という点がございました。</p>
	<p>1 日目はプレゼンテーションもあり参加型だからより理解が進みました。2 日目のお昼から聞く講義がとても長く多かったので、自分の英語力のせいもあり、理解力が悪く、少々消化不良になってしまいました。1 日目のように、もう少し参加したりインタラクティブにできる何かがあったら良かったのかもしれないと思いました。</p>
	<p>いくつかのレクチャーがビデオ講義であったことに当初やや驚きましたが、質問やディスカッションに貴重な時間を割けるので、非常によかったとおもいました。ただ、既にビデオ講義だと分かっているのであれば、事前に(1 週間前など)にリンクを配布していただけたら、さらによかったかなと思います。事前に見る事ができていれば、自分のペースで巻き戻したり止めたりしながらじっくりと見れるし、質問も整理できるので。今回は与えられた時間いっぱいのビデオでしたので、止めてメモを取りながら拝聴していたら、最後まで見終わる前にディスカッションが始まってしまい焦りました。</p>
	<p><b>As pointed out at the end, a group-work session would make the WS even more attractive in the future.</b></p>
	<p>字幕機能があると大変助かります。</p>
	<p>1 日目午前のセッションで、休憩の後、中谷先生のプレゼンで音が聞こえませんでした(よって、上のアンケートでも不参加としています)。あと、坂本先生のプレゼンも同様に、資料がみえず音声も聞こえず、みなさんが聞いている映像だけが流れていました。いずれも、その後の QA になったら音が聞こえるようになりました。私と同じ問題が、2 日目の里見さんのプレゼンでも発生したのではないかと思います。ぜひ、原因を解明して、再発防止に取り組んでもらいたいと思います。</p>

表 6：事前事後能力検査

Item	Scale	Pre-test		Post-test		
		n=24	(%)	n=21	(%)	
Individual's belief	1. I know exactly where to look to find conference documents for World Health Organization governing body meetings.	Strongly Agree or	7	(29.2)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	12	(50.0)	0	(0.0)
		Neutral	5	(20.8)	2	(8.3)
	2. I know how national positions are formed and how intervention statements for World Health Assembly agendas are drafted within my government.	Strongly Agree or	2	(8.3)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	16	(66.7)	0	(0.00)
		Neutral	6	(25.0)	2	(8.3)
	3. I know what to do and not to do in delivering interventions.	Strongly Agree or	1	(4.2)	21	(100.0)
		Strongly Disagree or	22	(91.7)	0	(0.0)
		Neutral	1	(4.2)	0	(0.0)
Individual's knowledge	1. Interventions should focus on individual country context. (Correct answer= Strongly Disagree/Disagree)	Strongly Agree or	6	(25.0)	3	(14.3)
		Strongly Disagree or	15	(62.5)	16	(76.2)
		Neutral	3	(12.5)	2	(8.3)
	2. Interventions are delivered in the alphabetical order of the countries speaking. (Correct answer= Strongly Disagree/Disagree)	Strongly Agree or	5	(20.8)	3	(14.3)
		Strongly Disagree or	12	(50.0)	15	(71.4)
		Neutral	7	(29.2)	3	(12.5)
	3. The purpose of interventions is to express country stance (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	20	(83.3)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	2	(8.3)	2	(9.5)
		Neutral	2	(8.3)	0	(0.0)
	4. Intervention content should be concise and spoken slowly to allow time for interpreters to interpret in the six official UN languages. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	22	(91.7)	20	(95.2)
		Strongly Disagree or	1	(4.2)	0	(0.0)
		Neutral	1	(4.2)	1	(4.2)
	5. Interventions should not single out or attack a particular country and should be delivered in a diplomatic manner. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	23	(95.8)	20	(95.2)
		Strongly Disagree or	0	(0.0)	1	(4.8)
		Neutral	1	(4.2)	0	(0.0)
	6. You should continue to deliver your message in full even if you go over the time allotted. (Correct answer= Strongly Disagree/Disagree)	Strongly Agree or	0	(0.0)	1	(4.8)
		Strongly Disagree or	21	(87.5)	20	(95.2)
		Neutral	3	(12.5)	0	(0.0)
	7. The classic structure of an intervention starts with thanking the Chair, stating the country stance, providing rationale, and closing by thanking the chair. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	22	(91.7)	19	(90.5)
		Strongly Disagree or	0	(0.0)	0	(0.0)
		Neutral	2	(8.3)	2	(8.3)
	8. Negotiations not only take place at the meetings but also offstage before and during the meetings. (Correct answer= Strongly Agree/Agree)	Strongly Agree or	20	(83.3)	21	(100.0)
		Strongly Disagree or	3	(12.5)	0	(0.0)
		Neutral	1	(4.2)	0	(0.0)

事前検査回答率：72.7%

事後検査回答率：63.6%

## 参考資料

## Global Health Diplomacy Workshop (2020)

### 概要 Course Overview

#### <趣旨>

令和 2 年度厚生労働科学研究費「国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究 (20B A 1002)」において、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や日本及び各国政府の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウイズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化のなかで、国際益と国益とを調和をもって国際舞台上で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助として本ワークショップを企画、実施する。

#### <対象>

国際的機関の意思決定会合（governing body meeting）に参加予定の者で、国際会議経験に乏しい官民の若手～中堅実務者を対象にする。

所属先：厚労省、外務省、JICA、NCGM、大学、シンクタンク・NGO など

人数：参加者 30 名とオブザーバー 20 名（推薦ベース）

#### <Purpose>

In the 2020 Ministry of Health, Labour and Welfare's Health and Labour Sciences Research Grant "Study for the Establishment of Strategic and Effective Intervention Methodologies for International Conferences (20BA1002)," the research team aims to analyze the history behind current issues in global health, examine global health diplomacy trends of Japan and other nations, establish strategic intervention methodologies for Japan, and develop an effective global health diplomacy educational program. In addition, the research team aims to work with the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW), Ministry of Foreign Affairs (MOFA), Japan International Cooperation Agency (JICA), and other global health policy organizations and research institutions overseas to develop more realistic and effective interventions, as well as educational materials and training programs. Amidst the geopolitical changes caused by the global pandemic of a novel coronavirus disease (COVID-19), there is an urgent need to cultivate human resources who can advocate for global health at the global level in harmony with international and national interests. This workshop was designed and will be implemented to help achieve such goals.

#### <Target audience>

The workshop is open to young and mid-level public and private sector practitioners who are planning to participate in a governing body meeting of international organizations and have little experience in such international meetings.

Possible affiliations include MHLW, MOFA, JICA,

NCGM, universities, think tanks, NGOs, etc.

<目的・目標>

世界保健総会をはじめとする国際会議にて、国際保健課題の議論に戦略的に介入して日本の立場を有効的に主張できる人材を育成するため、以下の教育目標を設定する。

- 1 国際的機関（国連・国連の専門機関・パートナーシップ）におけるガバナンスの意味を理解する。
- 2 会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- 3 国際会議の標準的なルールを理解する。
- 4 国際会議で有効な発言をすることができる。
- 5 国際会議の意思決定に自らの主張を反映させる技法を習得する。
- 6 国際益と国益を調和させる姿勢を滋養する。
- 7 国際会議の暗黙知を共有する

Expected number of participants: 30 participants and 20 observers (both on a recommendation basis)

<Objectives and Goals>

In order to develop human resources who can strategically intervene in the discussion of global health issues and effectively advocate Japan's position at the World Health Assembly and other international conferences, the following educational objectives have been established

1. Understand governance in international organizations (UN, UN specialized agencies, partnerships).
2. Understand the pre-conference national coordination and conference preparation process.
3. Understand the standard rules for international meetings.
4. To be able to speak effectively at international meetings.
5. Acquire techniques for reflecting one's own arguments in international conference decision-making
6. Nourish an attitude for harmonizing international and national interests
7. Understand the unspoken rules/tactics international conferences

<日時>

2020年12月12日(土)・13日(日)

<会場>

オンライン(Zoom)参加  
事務局と日本人講師は旅工房スタジオから参加

<様式>

オンライン形式によるワークショップ (国内リソースパーソンは会場に参集またはオンライン参加。外国人リソースパーソンは原則オンラインによりオンデマンド+リアルタイム参加\*)

注：\*リアルタイム参加が原則だが、可能な限り録画ビデオを送っていただきオンデマンド教材として用いる。当日、接続が悪い場合は録画ビデオ放映。ベストなのは、冒頭講師挨拶、ビデオ供覧、供覧中チャットで寄せられる質問に回答、ビデオ終了後ライブでQ&A)

<言語>

日本人講師のみのコマは日本語で、外国人講師が関与する部分は英語で実施。(同時通訳なし)

<Date and time>

Saturday, December 12 and Sunday, December 13, 2020

<Venue>

Online (Zoom), with the secretariat and some Japanese resource persons participating from a meeting room the Tabikobo office.

<Style>

Online workshop

Domestic resource persons will join either from the venue or online. Overseas resource persons will participate online in principle, with on-demand and in real time\*

Note: \*In principle, real-time participation is required, but if possible, a video recording for the use as an on-demand teaching aid should be presented to the secretariat ahead of time. If there is a poor connection on the day, we will broadcast the video on demand. (The best thing to do is to give a speech at the beginning of the session, watch the video, answer questions from the chat room, and do a live Q&A after the video.)

<Language>

Sessions with only Japanese instructors will be conducted in Japanese, and sessions involving overseas instructors will be conducted in English. (Simultaneous interpretation will not be provided.)

## <講義内容>

1. 国際保健概要
  - 国際保健外交：日本・タイの事例
2. 決議作成プロセスと有効な介入  
(intervention, 発言方法)
  - 決議文書の読み方
  - 有効な介入発言の準備の仕方
    - 日本・タイの事例
  - 介入発言 (intervention) の練習  
(資料はワークショップ開催前にメールで配布し、参加者には事前に介入文 (intervention) を準備・作成してきてもらい、ワークショップ初日に発言を行う。)
3. 交渉におけるイニシアチブの取り方
  - 過去の交渉事例紹介・経験談の共有

## <研究班としての活動>

- 1 事前・事後評価 (アンケート) によるスキルの習得状況
- 2 効果的な会議参加者に求められるスキルの同定
- 3 研修カリキュラムの形成と評価
- 4 今回用いた資料を基にした教材開発

## <Workshop Contents>

1. Overview on global health diplomacy
  - The Case of Japan and Thailand
2. Resolution-making process and effective interventions (interventions, speaking methods)
  - How to read the resolution documents
  - How to prepare for an effective intervention
    - Examples from Japan and Thailand
  - Practicing Intervention  
(Materials will be distributed via email prior to the workshop and participants will be asked to prepare an intervention statement beforehand and to deliver it on the first day of the workshop).
3. How to take the initiative in negotiations
  - Learning from past negotiation cases and personal experiences of resource persons

## Global Health Diplomacy Workshop (2020) Course Schedule Overview

| Day 1       |  |   |  |
|-------------|--|---|--|
| Time        | Session Title  | Session Content   | Facilitator  |
| 8:50-9:00   | <b>Sign-in</b>   | Registration and housekeeping matters to be explained   | Ms. Ishizuka   |
| 9:00-9:30   | <b>Self-introduction</b><br><br><b>Course objectives</b>   | <b>Self-Introduction</b><br>All resource persons and participants say a word after being called upon (20 min)<br><b>Overview of the workshop</b><br>Prof Iso (10 min)   | Ms. Ishizuka   |
| 9:30-10:20  | <b>Overview of global health diplomacy</b> (lecture)   | <b>Thailand's history on and investments in global health</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Suwit Wibulpolprasert &amp; Dr. Attaya Limwattanayingyong 15 min</li> </ul> <b>Using global health platforms and diplomacy to drive national interests</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Prof. Yasushi Katsuma (15 min)</li> </ul> Q&A: Dr. Suwit, Dr. Attaya, & Prof. Katsuma (20 min) | Prof. Iso (Introduce the speakers and facilitate Q&A)<br><br>(with an Assistant to monitor the comments submitted through the Zoom's chat function: Chat monitoring Assistant) |
| Break       | 20 min   |   |  |
| 10:40-12:00 | <b>World Health Organization and its role in global health governance</b> (lecture)<br><Session in Japanese> | <b>Structure, functions, and governing bodies</b><br><b>Navigating the Document systems</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Prof. Hiroki Nakatani (60 min)</li> </ul> Q&A: Prof. Katsuma and Prof. Nakatani (20 min)   | Dr. Akashi (Introduce the speaker and facilitate Q&A)<br><br>(Chat monitoring Assistant)   |
| LUNCH       | 60 min   |   |  |
| 13:00-14:15 | <b>Preparing for WHA and drafting of interventions</b> (lecture)   | <b>Forming national positions (Thai and Japanese cases)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Warisa Panichkriangkrai (20 min)</li> <li>• Dr. Yui Sekitani, (20 min)</li> </ul> <b>Making interventions: dos and don'ts</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Haruka Sakamoto (20 min)</li> </ul> Q&A: Dr. Warisa, Dr. Sekitani, Dr. Sakamoto (15 min)                                  | Dr. Umeda (Introduce the speakers and facilitate Q&A)<br><br>(Chat monitoring Assistant)   |
| Break       | 30 min   | Prepare for mock up session   |  |
| 14:45-16:45 | <b>Mocked up intervention</b> (role play exercise)   | <b>Delivering interventions at WHA</b> (participants deliver an intervention as if they are a representative from Japan or non-state actor)   | Prof. Nakatani (Chair the mock meeting, facilitate feedback by resource persons)   |

|              |  |  |   |
|--------------|--|--|---|
|              |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• Intervention to be delivered for 3 minutes per participant (3 min x all or selected participants)</li> <li>• Feedback by resource persons (30 min)</li> <li>• One theme (agenda item) to be selected and shared with participants ahead of time.</li> <li>• Participants will prepare statements representing their own country or non-state actors.</li> <li>• Mock Japanese national stance will be shared with participants</li> </ul> | <p>(Chat monitoring Assistant)</p> <p>(with an Assistant to sort the order of speakers. The speakers will raise hands using the function on Zoom)</p> <p>(with an Assistant to monitor the time of each intervention)</p> |
| 16:45-17:00  | <b>Recap of the day</b><br><Session in Japanese>   | <p>Q&amp;A: Prof. Iso and Prof. Nakatani (10 min)</p> <p>Selection of a participant to provide a recap on Day 2. (5 min)</p>   | <p>Dr. Sakamoto &amp; Ms. Ishizuka (facilitate Q&amp;A)<br/>(Chat monitoring Assistant)</p> <p>Prof. Iso</p>  |
| <b>Day 2</b> |  |  |   |
| <b>Time</b>  | <b>Session Title</b>   | <b>Session Content</b>   | <b>Facilitator</b>  |
| 8:50-9:00    | Recap of Day 1   | One lucky participant to provide a summary of what they learned in Day 1   | Ms. Ishizuka  |
| 9:00-10:00   | <b>Introduction to negotiations</b> (lecture)  | <p><b>Negotiation in global health: the principles</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (50 min)</li> </ul> <p>Q&amp;A: Mr. Charlie (10 min)</p>  | <p>Ms. Ishizuka (Introduce the speakers and facilitate Q&amp;A)</p> <p>(Chat monitoring Assistant)</p>  |
| Break        | 30 min   |  |   |
| 10:30-12:00  | <b>Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations 1</b> (lecture)<br><br><Session in Japanese> | <p><b>Negotiations behind a resolution: Universal Health Coverage</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dr. Satoshi Ezoe (80 min)</li> </ul> <p>Q&amp;A: Dr. Ezoe (10 min)</p>  | <p>Dr. Umeda (Introduce the speakers and facilitate Q&amp;A)</p> <p>(Chat monitoring Assistant)</p>   |
| LUNCH        | 60 min   |  |   |
| 13:00-14:00  | <b>Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations 2</b> (video lecture)                        | <p><b>Negotiations behind drafting of a resolution: Access to medicines</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Nilo Dytz Filho (60 min)</li> </ul>   | <p>Prof. Natakani (Introduce the speakers)</p> <p>(Chat monitoring Assistant)</p>   |
| 14:00-15:00  | <b>WHO Partnerships, Networks and Alliances: Challenges and Opportunities</b>                                  | <p><b>Navigating the politics and governance of a multilateral agency</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Issa Matta (60 min)</li> </ul>  | <p>Prof. Natakani (Introduce the speakers)</p>  |

|             |   |   |  |
|-------------|---|---|--|
|             | (video lecture)                         |   | (Chat monitoring Assistant)  |
| Break       | 30 min                                  |   |  |
| 15:30-16:30 | <b>Interactive Q&amp;A</b>              | Q&A: Mr. Filho and Mr. Matta (60 min)   | Prof. Natakani (facilitate Q&A)<br><br>(Chat monitoring Assistant) |
| 16:30-17:00 | <b>Wrap up</b><br><Session in Japanese> | Course summary and comments by Prof Iso and Prof Nakatani<br><br>Feedback on the course from participants | Prof. Iso  |

## Resource persons list

- Dr. Suwit Wibulpolprasert (タイ)  
Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF), Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand
- Dr. Attaya Limwattanayingyong  
Ministry of Public Health, Thailand
- Dr. Warisa Panichkriangkrai (タイ)  
International Health Policy Program (IHPP Thailand), Thailand
- Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (タイ)  
Ministry of Foreign Affairs, Thailand
- Mr. Nilo Dytz Filho (スイス)  
Minister Counsellor, Permanent Mission of Brazil, Geneva
- Mr. Issa Matta (スイス)  
Attorney, WHO Office of the Legal Counsel
- Dr. Satoshi Ezo (日本)  
Director, Global Health Policy Division  
Ministry of Foreign Affairs, Japan
- Dr. Yui Sekitani, (日本)  
Deputy Director  
International Affairs Division  
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan
- Prof. Hiroyasu Iso 磯博康(日本)  
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)  
国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) センター長
- Prof. Hiroki Nakatani 中谷比呂樹 (日本)  
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM  
NCGM グローバルヘルス人材戦略センター(HRC-GH) センター長
- Prof. Yaushi Katsuma 勝間靖 (日本)  
Director, Department of Global Health Affairs & Governance, iGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科研究科長
- Dr. Tamami Umeda 梅田珠実 (日本)  
Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM  
NCGM 国際医療協力局 局長
- Dr. Hidechika Akashi 明石秀親 (日本)  
Director, Department of Health Planning and Management, NCGM  
NCGM 国際医療協力局 運営企画部 部長
- Dr. Haruka Sakamoto 坂元晴香 (日本)  
Project Assistant Professor, Department of Health Policy and Management, School of Medicine, Keio University  
慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 特任助教
- Ms. Aya Ishizuka 石塚彩 (日本)  
Specially Appointed Researcher, IGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 特任研究員

Others:

NCGM Secretariat: 2-3 persons a day to assist with the operation during the workshop.